



# 乳幼児期に受ける予防接種の一覧



令和7年5月

種 別			接種対象年齢		標準接種年齢	回数	方法・内容等	
定期接種	小児用肺炎球菌※ <sup>1</sup>		生後2～60か月に至るまで		接種開始年齢 生後2～7か月	4回	＜標準接種年齢に接種を行った場合＞ 初回接種：27日以上の間隔をあけて3回接種 追加接種：初回終了後60日以上の間隔をあけ、かつ1歳以降に1回接種 ※初回2回目及び3回目の接種は生後24か月に至るまでに行い、それを超えた場合は行わない。追加接種の実施は可能。 ※初回2回目の接種が生後12か月を超えた場合、初回3回目の接種は行わない。追加接種の実施は可能。	
	B型肝炎		生後1歳に至るまで※ <sup>2</sup>		生後2～9か月	3回	27日以上の間隔をあけて2回接種。3回目の接種は、1回目の接種から139日以上の間隔をあけて1回接種。	
	ロタウイルス (いずれかを選択)	ロタリックス	出生6週0日後～24週0日後		1回目の接種は生後2か月～出生14週6日後まで	2回	27日以上の間隔をあけて2回接種	
		ロタテック	出生6週0日後～32週0日後			3回	27日以上の間隔をあけて3回接種	
	5種混合(DPT-IPV-Hib) (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ)		1期初回	生後2～90か月に至るまで	接種開始年齢 生後2～7か月	3回	20日以上の間隔をあけて3回接種 (生後7か月を過ぎて接種を開始しても、初回接種3回を接種する。)	
			1期追加		初回接種終了後 6～18か月	1回	1期初回(3回)終了後、6か月以上の間隔をあけて1回接種	
	5種混合または	4種混合(DPT-IPV)※ <sup>3</sup> (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)		1期初回	生後2～90か月に至るまで	生後2～12か月	3回	20日以上の間隔をあけて3回接種
				1期追加		初回接種終了後 12～18か月	1回	1期初回(3回)終了後、12か月以上の間隔をあけて1回接種
		ヒブ※ <sup>1</sup>		生後2～60か月に至るまで		接種開始年齢 生後2～7か月	4回	＜標準接種年齢に接種を行った場合＞ 初回接種：27(20)日以上の間隔をあけて3回接種 追加接種：初回(3回)接種終了後7か月以上の間隔をあけて1回接種 ※初回2回目及び3回目の接種は、生後12か月に至るまでに行い、それを超えた場合は行わない。この場合、追加接種は可能だが、初回接種終了後、27(20)日以上の間隔をあけて1回行う。
	BCG(結核)		生後1歳に至るまで		生後5～8か月	1回	委託医療機関で1回接種 ※保健福祉センターでの集団接種は令和5年3月で終了	
	MR (麻しん・風しん)		1期	生後12～24か月に至るまで		1回	1歳を過ぎたら早めに接種	
			2期	小学校就学前1年間		1回	幼稚園等の年長の時期がきたら早めに接種	
	水痘		1回目	生後12～36か月に至るまで	生後12～15か月	2回	3か月以上の間隔をあけて2回接種	
			2回目		1回目終了後6～12か月			
日本脳炎		1期初回	生後6～90か月に至るまで	3～4歳	2回	6日以上の間隔をあけて2回接種		
		1期追加		4～5歳	1回	1期初回(2回)終了後、6か月以上の間隔をあけて1回接種		
※ <sup>4</sup> 任意接種	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		1歳以上		1歳以上早期	1～2回	2回接種により免疫が強化される。2回目を接種する場合はMR2期と同時期を推奨	
	インフルエンザ		生後6か月～			2回	2～4週の間隔をあけて2回接種。(毎年接種が推奨される)	

※<sup>1</sup> 接種開始年齢が生後2か月～7か月に至るまでの場合は4回接種となります。(生後7か月以上から接種開始した場合は接種回数は1～3回と異なります。)

※<sup>2</sup> 母子感染予防の対象者※は定期接種対象外です。(※HBs抗原陽性の方の胎内又は産道においてB型肝炎ウイルスに感染するおそれのある方であり、抗HBs人免疫グロブリンの投与に併せて組み換え沈降B型肝炎ワクチンの投与を受けたことのある方)

※<sup>3</sup> 4種混合ワクチンは令和7年7月頃、在庫がなくなり次第、販売終了となります。

すでに4種混合ワクチンとヒブワクチンの接種を始めている方で、同一ワクチンでの定期接種が完了できない場合は、大阪市ホームページで詳細をご確認ください。

※<sup>4</sup> 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールを参照し、主なものを掲載しています。

大阪市保健所・各区保健福祉センター